

奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民投句

一般の部

令和七年九月度 入賞句一覧 投句数 六百七十二句



特選

大堀 武直 選

百歳の背をまつすぐに秋の空

大垣市 臼井 秀子

大気が澄み渡って広々と高く、ものは皆くつきりと見渡せる秋の空。
作者は百歳。昭和・平成・令和と生きてきた。敗戦・バブル・震災などいろいろな思
いが頭を過る。しかし、背筋を伸ばし姿勢を正せば、心は秋の空となる。矍鑠としてお
られる。

反魂丹添へて届きぬ今年米

愛知県豊田市 城山 悠水

反魂丹は食傷・腹痛等に特効のある丸薬。富山の薬売りが、全国に売り広めたと言わ
れている。
炊立ての新米はふつくらとして瑞々しく、おかずなしでも旨い。食べ過ぎに注意。栄
養バランスのとれた食生活をとという親心がよくわかる。

盆読経孫六人の声揃ふ

大垣市 和田 文月

盆休みに子供たちが孫を連れて帰って来た。作者の家は仏壇の前で読経する習慣があ
るのである。親子孫揃って声を出し経文を読む。小さな孫も大きな声で唱和する。な
んとも微笑ましいひとときである。後でお盆玉でも渡すのであろうか。

秀逸

重たげな夕日の落ちてすこし秋

大垣市 早筈 千恵子

晩夏光かつて名主の長屋門

養老郡養老町 田中 紫香

良夜かな笑ひ上戸が一人ゐて

東京都新宿区 花澤 ちいこ

門灯に家紋と化するいぼむしり

養老郡養老町 佐藤 礼子

チコちゃんに叱られながらビール飲む

東京都世田谷区 関戸 信治

赤蜻蛉群れて夕日へ下る舟

大垣市 高田 雅章

書きなづむ吾に添ひくる夜の虫

岐阜市 廣瀬 あや子

軽々と河を越え来て茄子の馬

岡山県岡山市 沼野大統領

虫を聴く歩みとなりて家路ゆく

群馬県館林市 坂口 いちお

夢を売る夜店の隅に同人誌

滋賀県大津市 近江堇花

入選

逆バンジー夏空背おう笑い声

大垣市

内山 久美子

盆踊りしんらんさまやおしやかさま

大垣市

水谷 義雄

卒寿とて気合は負けぬ盆用意

大垣市

早筈 千恵子

足つかれ心つかれて水まんじゅう

奈良県生駒市

阪田 怜士

秋寂や無人の駅に火牛像

愛知県名古屋市

酒井 弘

処暑の雲伊吹山越え近江へと

大垣市

赤塚 つねみ

仁王像阿吽狂わす猛暑かな

大垣市

浅野 翔泉

炊き上がるご飯の匂い今朝の秋

岐阜市

古田 静子

盆近しバツハの好きな老僧来

大垣市

吉川 和子

地方紙に包んで送る山の芋

和歌山県日高郡

笹野 紀美

傷負うてなお上流へ鮎の群れ

大垣市

香田 末代

信号の赤に重なり西日さす

山口県山陽小野田市壱岐

和男

死者若く生者皆老い八月来

東京都江戸川区

羽住 博之

暗闇の中に眼がある敗戦忌

大垣市

吉田 てるみ

巡回の体操終わり百日紅

愛知県津島市

浅井カバ先生

選者吟

爽やかや冠のひも切る音二つ

武 直



一般の部